

山嶺の女王クルマンジャン Kurmanjan Datka Queen of the Mountains

2014年 デジタル カラー 136分 キルギスタン 日本語・英語字幕付き

監督：サディック・シェル・ニヤーズ

プロデューサー：ジルディズカン・ジョルドシェワ ファルハッド・ベックマンベフト

脚本：サディック・シェル・ニヤーズ バキットベク・トゥルドゥバエフ

撮影：ムラット・アリエフ

音楽：バキット・アリシエロフ ムリザリ・ジェーンバエフ

出演：エリナ・アバイ・キズィ ナジラ・マクベトワ ジャマル・セイダクマトワ

アジズ・ムラディラエフ

19世紀初頭、ウズベク系のコーカンド・ハン国の支配下にあったキルギス。モングシュ族の娘クルマンジャンは、親が決めた結婚相手を嫌い、ダトカ（族長）のアルムベクと結婚する。アルムベクはキルギス統一の夢を抱いていた。しかしアルムベクは道半ばで暗殺されてしまう。クルマンジャンは夫の遺志を継ぎ、族長となって部族を束ねていく。

そのころ隣国のロシアは、その強大な軍力で次々と勢力を広げていた。ロシアと戦えばキルギスは滅びると考えたクルマンジャンは、ロシアとの併合を決意する。

クルマンジャン・ダトカ（1811–1907）は、キルギスの「国の母」といわれる国民的英雄。本作は彼女の生誕200年を記念し、キルギスの映画界において国家的なプロジェクトとして製作された。中央アジアの雄大な山岳地帯を舞台に繰り広げられる歴史大作である。映画のラストの写真は、1906年に撮影された唯一残る彼女の写真であり、撮影したのは後にフィンランド大統領となるカール・グスタフ・エミール・マンネルヘイムである。

監督メッセージ

（1991年に）国家の独立を勝ち取って以降、『山嶺の女王クルマンジャン』は我が国において最初に大規模予算で製作された歴史映画となりました。この映画は、国の母ともいわれるクルマンジャン・ダトカという我々の国家的英雄の遺産を引き継ぐために製作されたものです。この偉大な女王の生誕200年記念を祝うべく、キルギスタンは彼女の名前を冠した数種のプロジェクトを実施しました。その指令のもとに最初に完了したプロジェクトのひとつが、この映画だったのです。しかしながら、クルマンジャンについての映画製作は、すでに約20年も前に討議されていました。そして最終的にプロジェクトが2012年に開始され、映画が2014年に公開されたのでした。この映画は、驚くべき強靱な精神をもったひとりのキルギス人女性を描いており、彼女は祖国のために、数多くの試練や生命の危険にさえ立ち向かっていきました。運命に打ちのめされながらも、彼女は国民を完全な破滅から救いました。現在では彼女は勇気と寛容の象徴となっています。この女性こそがキルギスタンの人々の誇りなのです。この偉大な女性の物語をこの映画に反映させることができ、私も撮影チームのメンバーも誇りに思っております。

（参考：2015年アジアフォーカス・福岡国際映画祭カタログ）